

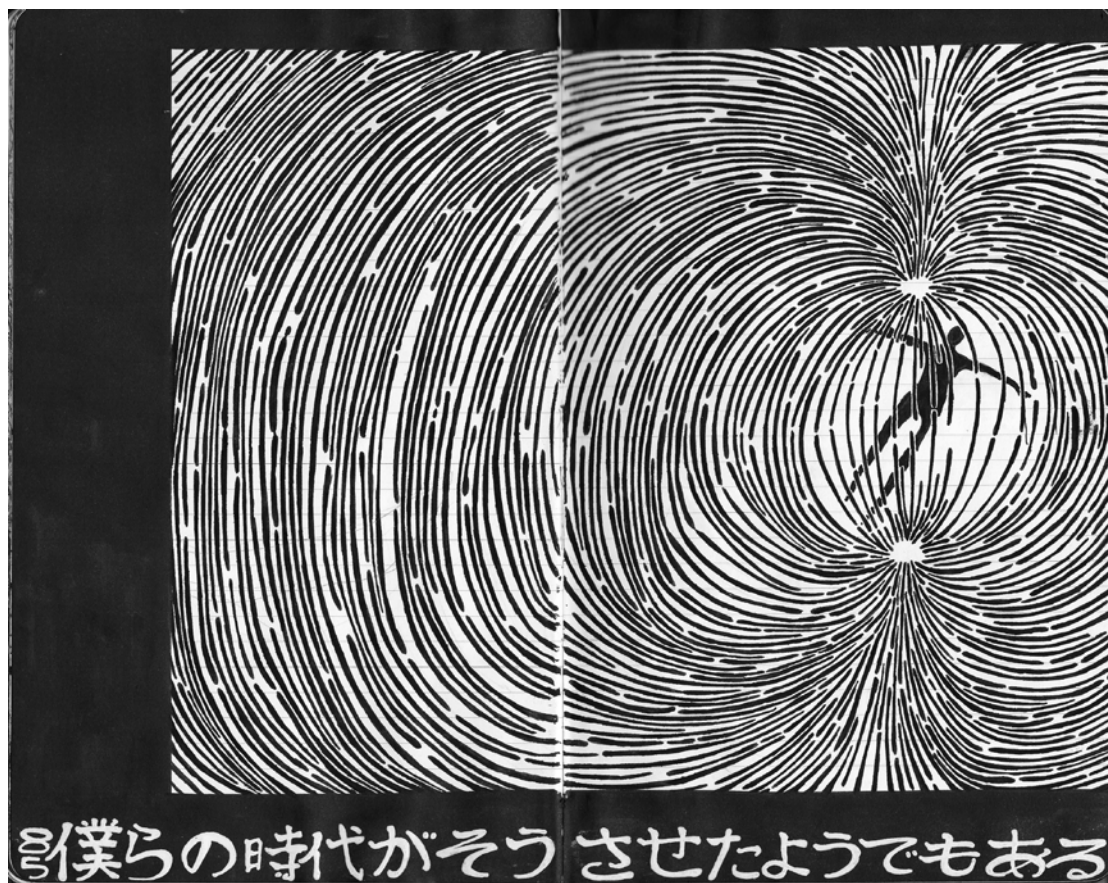
Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

111

2023

秋 季 号



日本大学芸術学部
校友会ホームページ



日本大学
芸術学部
校友会

CONTENTS

校友会設立75周年記念式典開催 報告	03
校友会総会・支部総会開催 報告	05
卒業生ストーリー「今、ここで。」	07
江古田会ニュース	
東京江古田会・宮城江古田会	09
佐賀江古田会・ふくしま江古田会	10
熊本江古田会・北海道江古田会	11
鹿児島江古田会・福岡江古田会	12
石川江古田会・山形江古田会	13
第17回日芸賞受賞記念講演会	14
学科ニュース	
写真学科・映画学科	15
美術学科・音楽学科	16
文芸学科・演劇学科	17
放送学科・デザイン学科	18
ウンレン・ブンレン 運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中	19
新役員の紹介	20
日々是好日 会長日記	21
今昔江古田B級グルメ	21
校友会からのお知らせ	22
編集後記	22

表紙作品 玉利奈津実(美術学科2022年度卒)

「僕らの時代がそうさせたようでもある」

作品解説

この絵はモレスキン×日芸コンペに出品するために制作した内の1枚です。このコンペはモレスキンの手帳を使った作品を制作するという条件だったので、私は手帳をその日の出来事、考えたこと、触れたものを記録する絵日記帳として使いました。表紙の絵は2022年8月5日に描いたものです。「僕らの時代がそうさせたようでもある」はTempalayの『GHOST WORLD』という曲の歌詞からの引用です。描いた日はこの曲を聴きながら、目まぐるしく変わりうねる世界とそこに生きる個人との関係性を考えていました。絵は私の毎日の生活の、ほんの一部の記録です。

2023 日芸祭





日芸祭

2023年11月3日(祝・金)・4日(土)・5日(日)

中庭テント：お休み処(ドリンク販売あります)

西棟4階図書館閲覧室：鉄道写真展と鉄道模型ジオラマ展示

開催時間：いずれも10:00~16:00、最終日は15:30まで

詳細が決まり次第、校友会HPと芸術学部HPに掲載されますのでご確認ください。



日本大学芸術学部HP
<https://www.art.nihon-u.ac.jp/>



日本大学芸術学部校友会HP
<https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

2023
7/1

日本大学芸術学部校友会設立75周年記念式典開催

(記念式典・懇親会 日時: 2023年7月1日 17:00 会場: 日本大学芸術学部内 A 棟大ホール)



日本大学芸術学部校友会設立 75 周年記念式典 出席者 178 名により賑やかに開催

日本大学芸術学部校友会は 1948(昭和 23) 年 4 月に発足しました。本年は、校友会発足から 75 周年の節目にあたることから校友会執行部を中心に準備を進め記念行事の一環として、7 月 1 日(土)午後 5 時より A 棟大ホールにて懇親会に先立ち、校友会設立 75 周年記念式典を挙行政致しました。

司会進行には在校生(放送学科アナウンスコース)住谷 陸、岩川佳士乃両名に託し、二人の開会挨拶で式典を開始しました。

式典の開催テーマは「日芸校友会の大いなる 75 周年を振り返る今こそ、校友会の未来を語り、新たな歴史の端緒を紡ごう～」を掲げ、連綿と積み重ねてきた「歴史の重みと価値の創造」「校友会の更なる発展を継承」を目指し、本式典をはじめとした記念行事を企画いたしました。

式典に参加された国内外から卒業生 86 名、喜寿校友 11 名、本部来賓 2 名、学部来賓 5 名、校友会顧問 2 名、協賛ご招待 2 名、特別ゲスト 3 名、学科学生代表 8 名、当日参加学生 59 名の合計 178 名全員が参加して校歌を斉唱。



在校生による司会進行

式次第の初めに校友会を代表して田上会長の挨拶に引き続き、ご来賓の大貫進一郎副学長、本学 OB で落語家の春風亭一之輔師匠、川上央芸術学部長、野田慶元元・芸術学部長からご祝辞を賜りました。



田上 芸術学部校友会会長



大貫 日本大学副学長



川上 芸術学部長



野田 元芸術学部長



中村獅童丈



春風亭一之輔師匠

次に来賓の遠山芸術学部事務局をはじめ本日参列の学部事務四役、本部校友会金澤事務長兼校友課長、各学科在校生代表、特別来賓としてウッドオフィス株式会社代表取締役社長名取様、遠路札幌からご出席頂いた有限会社リブ・アクティブ代表取締役社長目黒様をご紹介します、そのあと本学 OB で歌舞伎俳優の中村獅童丈から祝辞を賜りました。

最後に国内 18 支部・海外 3 支部計 21 支部の支部長を紹介した後、参加者全員で記念撮影をおこない、厳かな中にも結束感と祝賀感溢れる式典が無事に閉会いたしました。

参加者全員がクラッカーを鳴らして賑やかに懇親会開催



川村様による口上



木村 前芸術学部長

日本大学芸術学部設立 75 周年記念式典に引き続き、同じ会場にて、午後 5 時 50 分より懇親会が賑々しく始まりしました。

熊本江古田会の川村晃生事務局長の口上のあと、司会による開会宣言、芸術学部前学部長の木村政司先生の乾杯発声で参加者全員がクラッカーを鳴らして賑やかに開会を祝賀しました。

歓談・会食のなか、最初のアトラクションは、アジア芸術文化促進会代表・王文強（ワン・ウェン・ティエン）様に、中国伝統芸能「変面」川劇的一幕を上演していただきました。

王文強氏は国立中国戯曲学院演劇学科を経て日芸大学院芸術学研究科舞台専攻を卒業後、「アジア芸術文化促進会」を設立。現在は日本を中心に、日本と中国の伝統芸能を用いた創作舞台の企画・上演に積極的に取り組んでおられます。

変面とは、中国四川省の伝統芸能で元々は四川省の地方劇「川劇」の舞台表現の手法。劇中で次々と変わるお面は人物の喜怒哀楽の心理変化を表す中国伝統芸能の「絶技」です。一瞬でお面が変わる早業は、まさに「瞬間芸術」。その技を堪能させていただきました。

次の演目はカラオケで、西田聖志郎様、加藤ジュンコ様に司会進行をお願いするのみならず、西田様には「太陽は燃えている」「マイウェイ」を、加藤様にはサビの部分「ヴォアラレ」が有名な「Nel blu dipinto di blu」などを素晴らしい美声でご披露いただきました。「日芸と校友会が澄み渡る青空の如く爽やかで、ウキウキと楽しく、高い空に自由に羽ばたけるようにと歌わせていただきました」とは加藤様のお言葉です。

歓談・会食は続き、参加者のみなさんは旧交を温め、恩師と再会して、和やかな時間を過ごしました。

宴もたけなわ午後 7 時を過ぎて、懇親会で出席の皆様全員で写真学科八木先生により、出席者全員が集合して記念写真を撮影しました。

芸術学部校友会副会長の松島哲也先生により中締めのご挨拶のあと、懇親会は無事、つつがなく閉幕しました。

最後になりましたが学部教職員の皆様をはじめ、本部及び本部校友会、ご協力いただいた在校生や関係各位の皆様にご礼申し上げます。



王文強（ワン・ウェン・ティエン）様の中国伝統芸能「変面」



西田様、加藤様によるカラオケ



出席者全員で記念写真を撮影

2023
7/1

日本大学芸術学部校友会総会・支部総会

総会に先立ち校友会支部総会を開催

令和5年度日本大学芸術学部校友会・支部総会が総会に先立ち12時から行われました。

出席者：田上 会長、高橋 副会長、松島 副会長、千北 副会長、田中 副会長、北海道・氏家 会長、岩手・鈴木 会長、宮城・桑折 会長、山形・横倉 支部長、ふくしま・酒井 支部長、東京・吉川 支部長、長野・松沢 事務局長、石川・北門 支部長、愛知・三富 幹事、福岡・飛嶋 事務局長、佐賀・光野 会長、熊本・奥村 会長 17名

例年は新年顔合わせの前に行っていましたが、今年は75周年式典を行うため各支部長にもご出席していただき、2年半ぶりの支部長方の顔合わせとなりました。

川上学部長はお忙しく、会議が始まる前に挨拶に見えました。各支部長の挨拶と活動報告、支部の総会開催日程など連絡やご意見をいただきました。

- ・コロナ禍で活動が止まってしまい、繋がりが薄くなってしまい繋がりを取り戻すのは大変ですが、小規模からでも集まり盛り上げていきたい。
- ・校友会からの補助金が5万円から3万円になり、原資がないと苦しいです。いつか元の額に戻してほしい。
- ・新年顔合わせではなく総会に出席したい。
- ・若い人の参加が少ないのが今後の課題です。
- ・日大に受験をするのに校友会推薦枠があることを知りませんでした。もっとアピールして欲しい。
- …などの報告と意見が出て、実りある時間でした。



校友会支部総会



北海道 江古田会
氏家 会長



岩手 江古田会
鈴木 会長



宮城 江古田会
桑折 会長



山形 江古田会
横倉 支部長



ふくしま 江古田会
酒井 支部長



東京 江古田会
吉川 支部長



長野 江古田会
松沢 事務局長



石川 江古田会
北門 支部長



愛知 江古田会
三富 幹事



福岡 江古田会
飛嶋 事務局長



佐賀 江古田会
光野 会長



熊本 江古田会
奥村 会長



引き続き午後2時より校友会総会を開催（出席者 77 名）

令和5年度日本大学芸術学部校友会総会は、支部総会に引き続き、7月1日午後2時より江古田校舎A棟地下2階AB201教室で開催されました。出席 77 名、委任状 1461 通。

出席した 77 名の各学科のうち内訳は、写真学科 14 名、映画学科 7 名、美術学科 3 名、音楽学科 5 名、文芸学科 13 名、演劇学科 13 名、放送学科 18 名、デザイン学科 4 名です。

日本大学の改革という大きな変革が進む中での芸術学部校友会の総会です。

開会の辞、会長挨拶の後、令和4年度会務報告、令和5年度会務計画案の説明、各委員会の活動報告、令和5年度予算案の審議とつつがなく進み、次期校友会会長選出を含む役員改選と会則改定という大きな議題についても、拍手を持って承認されました。

昨年はコロナ禍で中止となった懇親会は会場を移して盛大に開催されましたが、これについては別項にて詳細にご報告致します。

令和5年度日本大学芸術学部校友会総会議題

- 令和4年度会務報告、令和5年度会務計画案について
- 各委員会活動報告
- 令和4年度会計報告、令和5年度予算案について
- 役員改選（次期会長選出について）
- 堤さくら監事の交代について（会則第16条 役員の選出、6）
- 芸術学部校友会準会委員及び推薦交友について
- 芸術学部校友会準会委員・推薦校友の終身登録費徴収について【会則改訂】



令和5年度（2023年度）予算

収入之部		
勘定項目	摘 要	金 額(円)
本部よりの会費	準会員 4,000 円× 3,865 人= 15,460,000 円 正会員 3,000 円× 50 人=150,000 円	15,610,000
校友会終身登録費	5,000 円× 150 人= 750,000 円	750,000
雑収入	総会懇親会会費、お祝い金等	850,000
収入利息		500
合 計		17,210,500

支出之部		
勘定項目	摘 要	金 額(円)
総会費		200,000
諸会議費	常任幹事会・幹事会・諸会議	120,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤、ガムテープ・雑巾 他	15,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	120,000
通信費	会報発送（在校生・卒業生） 総会・会費請求切手 他	5,200,000
補助費	学科同窓会・日芸祭補助 支部補助（21 支部× 3 万円）支部総会出席祝儀	850,000
寄付分担金	本部校友会分担金・日大スポーツ振興寄付	340,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	2,200,000
人件費	事務局員給料・アルバイト・人材派遣	4,600,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	700,000
旅費・交通費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	583,500
租税公課	利子税	1,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ・キーホルダー	200,000
備品維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良、 コピー機リース（173,400 円）	1,144,000
本部役員会費	年会費（本部副会長 5 万・常任委員 2 名各 3 万・ 委員 3 名各 2 万）	170,000
交流費	賀詞交歓会	50,000
業務委託費	中間・決算・期末決算	167,000
雑費	会報取材費・会報誌デザイン料 他	100,000
支払手数料	銀行支払手数料、コンビニ収納サービス手数料など	150,000
退職積立金	事務局員退職金（校友会内規第 4 章第 19 条）	300,000
合 計		17,210,500

特別会計	総会及び 75 周年記念式典費用	1,000,000
	総会及び 75 周年記念式典 支部長交通費	700,000
	日本大学芸術学部校友会奨学金 (8 名× ¥100,000)	800,000
特別会計合計		2,500,000

75周年記念式典開催にあたり、次の卒業生たちから協賛金をいただきました。ご厚情に心から感謝いたします。

新井 正明 様	¥100,000
名取 禎 様	¥100,000
真壁 喜久夫 様	¥100,000
目黒 英明 様	¥100,000
田上 竣詞 様	¥100,000



「江戸の遊び絵」
東京書籍刊 1988年

あどけなくほ・えあかける……
やわらかな顔をそっとすりよせる……
お子さまの一つ一つのしぐさに、あ
なたは親であることのよろこびをが
感じることでしょう。そして、
限りない可能性をもっているお子さ
まに対して、大きな責任をお感じに
なるにちがひありません。少しのが
不安もない未来を約束してあげたい……
と願うのは当然です。

〈東洋信託銀行〉がお手伝いいたします
幼稚園から高校・大学へ、そして就
職。結婚など……お子さまの成長に
ともなう必要な資金、その貯
蓄づくりを〈東洋信託銀行〉におまかせ
させていただきますのです。10年先
30年先を見通したあなたのプランだ
けが、お子さまに明るい未来を約束
できるのです。

安全・有利に、大きく殖やす
〈東洋の優待預金〉
お子さまの資金プランにぜひおすす
めします。“資金保証”という絶好的
な安全性に加えて、年7分3厘7毛
という、ほかの預貯金には見当らな
い高利回りです。半年ごとの配当金
を優待の贈ししますと、元金の年率で
1.5倍、10年では3倍以上にもなり
ます。また毎月1万円ずつ積立てる
と、10年で17万円にもなります。
ほかにも……積立て、払出しに便利な
〈東洋貯蓄金庫付貯金〉もご利用ください
東洋信託銀行

無限の責任を感じます



「図説 浮世絵入門」 河出書房新社刊 1990年
「江戸猫 浮世絵猫づくし」 東京書籍刊 2010年
「日本浮世絵切手総図鑑」 日本郵趣出版刊 2016年

卒業生ストーリー

「今、ここで。」

デザイン学科 S35年度 1960年度卒業
稲垣進一

グラフィックデザイナーの一流を目指して

新宿高校3年の頃、図案とか商業美術と呼ばれていた方面へと進路を決めた。当時ではデザインといえば女性の服飾デザインを指す時代であった。戦後経済も上向き始めたころ。家が貧しかったので学費が安い国立の芸大・教育大・千葉大を一年一校ずつ受験したが合格叶わず、長男なので零細な商売を継ぐはめになるので家を出るにはどうしても大卒の卒業証書が欲しかった。二浪して、入学金が一番安い日大文理学部に

入学した。しかしながら諦めきれず、家業を手伝いながら桑沢デザイン研究所の夜間部で学び芸術学部美術学科2年に編入してようやく人生コースが定まった。

図案がグラフィックデザインに生まれ変わるこの時代に日芸で学んだわけだ。これまで専任教授がいなかったところフリーのグラフィックデザイナー渡辺信一氏、翌年、電通の宣伝技術局長の中井幸一氏がそれぞれ週1回の授業を持ってくれたことが大きな改革であった。因みに兩人とも本学の先輩である。渡辺教授は課題を出して描いた作品を個々に批評する従来の方法。中井教授

は大胆にもいきなり現実の商品、ニッカウキスキーの宣伝広告制作を課題とした。大量生産大量消費の商品をどう捉え、どう伝えるか、広告の最前線に投げ出された。商品进行分析し、広告制作のノウハウをみずから学び新聞広告表現として創るのだった。広告デザインの現実を学ぶことは大きな経験であった。

就職口も狭いので実力をつけねばならぬ。2年の時から日宣美展に挑戦。3年の時、観光ポスター「平泉」が入選。さらに同年、毎日商業デザイン賞でポスター「日本電建」が佳作入賞した。これでグラフィックデザ

イナーとしての就職は自信が付いて大手印刷会社、図書印刷に入社。企画部というデザイン部門であった。これで目標達成ではない。一流のグラフィックデザイナーになるには日宣美会員になってフリーになること。挑戦はまだ続く。図書印刷在籍中に朝日広告賞で「ピას化粧品」(新聞広告)佳作入選。日宣美展「婦人雑誌のためのエディトリアル」入選。転職して、さらに「東洋信託銀行」準朝日広告賞受賞、毎日広告賞「資生堂スペシャル化粧品」(新聞)佳作入選。華々しく見えるがあと一回の日宣美展入選が果たせぬうち当の日宣美は学生運動の極権廃止論に同調して、あっけなく解散してしまい、私は目標を見失ってしまったのだった。

突然、浮世絵に出会った

そんなある日、撮影に使う小道具を求めてデパートで買物を済ませ、店内を歩いていると骨董市の催事場。古民家の古びた道具類の間を歩いていたらガラスケースの上に数枚重ねてある浮世絵が突然目に刺さった。武者と町娘が見栄を切っている半身図。役者絵とわかるが写楽ではなく「豊国画」とサインがある。聞いたことのない絵師だが訴えてくる力があつた。江戸時代を代表する芸術である浮世絵はすでに博物館・美術館に収まっていて巷に放浪しているとは思ひもよらなかった。デザイナーも大衆に訴えかける現代の浮世絵師だ。心根は相通じる。現代は値段がたったの2千円。何故か知りたい。これがきっかけで忘れ去られた浮世絵探求にのめりこんだ。

江戸に興味を持った私は広告の仕事で都内のマンションのパンフレットに色鮮やかな江戸の古地図をビジュアルに用いたがあきたらず、トリミングせずに全体を見せたいと思い、B2判裏表に浅草の切絵図と浮世絵を用いて無謀にも『江戸古地図めぐり』というガイドマップを作って自費出版してしまった。これが読売新聞の記事に載り、目に留まった宣伝部から連絡があって読者サービスで配布する浮世絵原寸複製画の企画立案を依頼された。そこで広重の「東海道五拾三次」「木曾街道六十九次」の原画調達・解説執筆まで任せられ街道を実地ルポして解説を書いたのが大変勉強になった。

一方、朝日新聞の「遊びの博物館」(銀座松屋)という遊びの造形の展覧会の手伝いを依頼され、指定された歌川国芳の作品を借出した。この展覧会が評判で3年後に「遊びの博物館PART2」と同時開催で浅草松屋の会場を全面的に任されて作ったのが「江戸の遊び絵展」であった。「遊び」を共通のキーワードとし遊び心で造形された浮世絵の戯画を中心としてこれまで紹介されたことのない浮世絵展が出来た。図録は作らなかったで、後に写真を出版社に持ち込み、東京書籍で『江戸の遊び絵』という画集になった。限られた浮世絵愛好者だけではなく現代の視点から広く見てもらいたいと著名なデザイナー福田繁雄氏に監修して頂いたことから『江戸の遊び絵』がマンガ家から小学生まで多くの人に知られることとなった。この『江戸の遊び絵』で国際浮世絵学会賞を受賞した。

『江戸の遊び絵』を見た河出書房新社から新しい発想の浮世絵入門書をという注文で出来たのが『図説浮世絵入門』。帯に書かれた「見て画集、読んで事典」ビジュアルで斬新な浮世絵入門書はロングセラーになった。東京書籍では『江戸の遊び絵』の好評に続いて友人の浮世絵コレクターと共著で。浮世絵は江戸情緒という既成のイメージを砕いた『国芳の狂画』『国芳の武者絵』『江戸猫浮世絵猫づくし』『国芳のいきものとばけもの』と未開拓なジャンルを切り開いていった。また学習塾で有名な「くもん」に子ども絵・母子絵・おもちゃ絵の収集を連言して『子ども浮世絵』という新しいジャンルを形成した意義は大きい。日本独自の江戸の庶民文化、浮世絵は今後も広く深く探求されて行くであろう。

浮世絵は世界に拡大進出する

UKIYO-Eは国際語だ。世界に流通する。だから海外との交流も多い。初めての海外の仕事はメキシコのカリージョヒル美術館所蔵の浮世絵の鑑定であった。メキシコ人コレクターは過去にメキシコ美術展で来日の際に購入。その後も収集を続けた。日本との文化交流のイベントで公開するので鑑定のため私は2週間メキシコシティに滞在した。

浮世絵研究に携わっていると展覧会・講演・シンポジウムなど海外に行くチャンス

が多い。

メキシコ(カリージョヒル美術館)・フランス(パリエコールノルマル・パリ第七大学)・スペイン(マドリッド自治大学・サラゴサ大学)・オーストリア(ウィーン大学)・カナダ(ウェストバンクーバー美術館)・中国(浙江大学・麗江旅遊大学)など。

日本で近年、交通不便な田舎町にも美術館が出来る。2000年、栃木県と茨城県の山間の小さな町の公立の馬頭町広重美術館の初代館長に推されことがある。我が国の文化行政の一端に身を置き、いかに江戸の庶民文化を現代に生かすか。アートと住民のかかわりは如何に。館長という役職に就いた3年間の経験は貴重であった。

展覧会の企画構成は好きな仕事だ。最も愛好する幕末の浮世絵師の『没後150年記念破天荒の浮世絵師 歌川国芳』展は自分で手掛けたかったもの。風景画の巨匠『東海道・木曾街道 広重二大街道浮世絵展』の広重英泉「木曾街道六十九次」の完品は読売の解説以来長年探したが日本では見つからなかった。その英泉の落款入初摺が初めて米国で発見された。摺の良い優品はすでに明治時代に海外に流失したという証左である。

最後であるが、母校の大学院に講師として招かれたことは身に余る光栄である。

浮世絵との出会いによって思わぬ人生が展開した。「今、ここで。」筆を置き、次に心に暖めていた『浮世絵の造形』の執筆に取りかかろうと思う。

稲垣進一のプロフィール

1936年東京生まれ 桑沢デザイン研究所・日本大学芸術学部美術学科デザイン専攻卒業 グラフィックデザイナーとして印刷会社・広告代理店に勤務の傍ら幕末明治の浮世絵を収集研究 那珂川町馬頭広重美術館館長、日本大学芸術学部講師・東京工芸大学芸術学部講師を歴任して現在国際浮世絵学会常任理事 第20回国際浮世絵学会賞受賞 著書：額絵集広重東海道五拾三次(読売新聞社) 額絵集広重英泉木曾街道六十九次(読売新聞社) カラーブックス中山道昔と今(保育社) 江戸の遊び絵(東京書籍) 図説浮世絵入門(河出書房新社) 国芳の狂画(東京書籍) 国芳の武者絵(東京書籍) 江戸猫浮世絵猫づくし(東京書籍) 日本浮世絵切手総図鑑(日本郵趣出版)ほか



昨年7月、校友会東京支部として東京江古田会が誕生いたしました。設立がコロナ渦の真っ最中でもあり、集うことが難れ、活動が儘ならない時期が続いておりました。今般、新型コロナが5類に移行されたことにより感染状況が落ち着いてまいりましたので、やっと本格活動が開始できるようになりました。

母校のお膝元でありながら、交流の機会が多くなかった関東地区在住・在勤の校友の皆さんの相互の連携と親睦を図る場になるよう活動してまいります。

さて去る6月、設立後初めての総会・懇親会が芸術学部学生食堂にて開催し、〇〇名が参加いたしました。当日は田上校友会長、4月に就任された川上學部長、木村前學部長にご出席いただき、ご挨拶とともに本学および学部の現状についてお話をいただきました。また懇親会では各会員が久しぶりに旧交を温めあっておりました。

今後の活動予定の詳細についてはHP等で適時ご案内いたしますが、卒業後、母校を訪れる機会が少なくなったことと思いますので、キャンパス内で実施の行事も計画したいと思っています。

なお11月に開催される日芸祭（現在の名称）会場でのブースにはぜひお立ち寄り下さい。

母校は新キャンパスとなり、江古田の街も変わりましたが、かつて一緒に学んだ日芸生としてのご縁ときずなを大切にしたいと思っています。

首都圏をはじめ関東地区在住・在勤の校友の皆さんのご入会をお待ちしております。

連絡先：tokyo.ekodakai@gmail.com



東京江古田会会長 吉川 元（放送学科 S52年度卒）

■芸術学部美術学科平成12年卒の柴田滋紀です。

宮城県石巻市を中心に、「にじいろクレヨン」という団体で子どもの居場所・遊び場作りを行っています。

大学院卒業後、郷里の石巻で画家活動の傍ら、絵画教室、剣道道場の指導など、子どもに関わる日々を過ごす中、2011年3月11日、津波で自宅は流され、私自身着の身着のまま被災。避難所生活が始まりました。人々の悲しみや怒り、絶望がうずまく避難所で、私の目に映ったのは、息をひそめながら生きている子どもたちの姿でした。生き延びた自分に何ができるか。遊んだり、話を聴いたり、寄り添うことならできる。「10年間は活動を続ける」と心に決め、保育士さんたちや、避難所のリーダー、高校生ボランティアの協力を得て、1日1時間半の遊び場作りを毎日行いました。その活動を遠方から支えてくれたのが日芸の仲間たちでした。大学時代所属していた剣道部や運動部の同期、先輩、後輩、美術学科の仲間などが力を貸してくれました。全国から集まる支援物資の整理、活動の情報発信、資金集め、被災した子どもたちと本気で遊び、組織作りや運営面でのサポートもしてくれました。なにより、私を精神的に支えてくれたことに感謝しています。仲間がいてくれたから続けられたのだと。その活動も、振り返れば13年目に突入。7,000回、のべ80,000人が居場所作り活動に参加しました。剣道部の後輩である妻も活動にたずさわり、2人の娘にも恵まれました。その間、避難所から仮設住宅復興住宅や防災集団移転地への移住、さらにはコロナ禍と、活動を通じてコミュニティの崩壊と再形成に常に向き合ってきました。社会情勢は変われど、子どもたちが安心・安全に暮らせる日がくるのはまだまだ遠いことを痛感しています。



これからも人と人のつながりを糧に、全ての子どもが心の底から笑顔になれる日がくるまで歩み続けていきたいと思います。

■6月24日、今年度の定例総会がコロナ禍前と変わらぬ形で仙台市内で開催され、令和4年度の活動報告・会計報告、令和5年度の活動計画・予算の全てが承認されました。此の後日芸校友会常任幹事 宮澤誠一氏、岩手江古田会会長 鈴木勝博氏も加わり総勢16人のにぎやかな懇親会になりました。

江古田支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。(TEL.03-3554-5363)

佐賀江古田会

佐賀江古田会では、少人数ながら、毎年新会員に加入して頂いていますが、今回はNBCラジオ佐賀局長の村山さんをご紹介します。(以下、ご本人の文章です)

はじめまして。この度、佐賀江古田会に「再入会」しました、1992年放送学科卒業の村山仁志です。今年4月、NBC長崎放送本社報道メディア局から、NBCラジオ佐賀局(通称・NBCラジオ佐賀)に異動し、局長兼アナウンサーをしています。弊社は全国的にも珍しい2つの県にまたがったローカル局で、長崎にテレビ局とラジオ局、佐賀にラジオ局があり、異動もあるのです。

さて冒頭の「再入会」というのは、実は私は25年前にも佐賀局に5年半在籍していたので、2回目の勤務となります。前回在籍時に結婚して戸籍も佐賀に移しましたから、長崎に戻った後もずっと「隠れ佐賀県民」でした。だから再び佐賀の地に呼ばれたのかなあ、と感じています。

佐賀県は今、来年初開催の「SAGA2024国民スポーツ大会」(国体が変わる新しい大会)に向けて活気があり、放送局として面白い時期に異動させてもらったと喜んでます。

アナウンサーとしては、2018年にギャラクシー賞ラジオ部門のDJ・パーソナリティー賞を受賞。現在は、午前9時から4時間ワイド「あさくら」を木曜日と金曜日に担当しています。この番組は佐賀局発信ですが、長崎のNBCラジオでも丸々ネットしています。ちなみに、局長がアナを兼ねるというのは、NBCの71年に及ぶ歴史の中でも初めてだそうです。正直、兼任は忙しくて大変ですが、やりがいを感じています。



プライベートでは、2009年に学研で新人文学賞を受賞し、これまでに7冊を出版。このうち5冊が台湾と韓国で出版されています。代表作の幽霊ファンタジー「午前0時のラジオ局」(PHP文芸文庫)は、文化放送でラジオドラマ化されたほか、今春、ジャニーズ事務所の協力で舞台化され、東京・大阪・長崎で21公演を行い、

おかげさまで好評を博しました。

せっかく佐賀に来たのですから、今度は佐賀を舞台にしたストーリーを書こうと目論んでいます。運良くリリースの際は、是非お読みください！ (佐賀江古田会・村山仁志)



ふくしま江古田会



日芸ふくしま音楽祭を今年初めて開きました。出演者とスタッフの集合写真です。客席にはOBの姿があり、多くのニチゲイ人が一堂に集まったイベントでした。良かったのは音楽学科卒の方々が江古田会に入会してくれた事です。ありがとうございます。音楽祭を通して今後も日芸のネットワークを広げていければいいですね。フェイスブックにふくしま江古田会のサイトがありますので、みなさん友達申請をお願いします。

来年はふくしま江古田会発足15周年です。これを記念した第2回日芸ふくしま音楽祭を3月10日(日)に郡山市のミュールがくと館で開催します。鉄道写真家とのギャラリートークもあります。フェイスブック等で情報発信しますので来場方よろしくお願いたします。



今年は総会後に久しぶりとなる懇親会を開きました。演劇学科卒で東京演劇集団「風」に所属するOBが来て福島市で開催する公演をPRしました。この演劇公演については福島市に住む会員にハガキでお知らせしました。またメールマガジンも配信していますので総会への出欠ハガキにメールアドレスをご記入ください。音楽、演劇、写真展などの情報をお送りします。

日芸OBの話題は下記までお願いします。

ふくしま江古田会 会長 酒井泰彦 090-5353-1820

「やはり同窓会は楽しかね！」

熊本江古田会 奥村隆志

熊本で「あんた卒業はどこね？」と聞かれると「〇〇高校です」と答えます。なぜか熊本はどここの高校卒業なのかで会話が進みます。他県の高校卒業だと話がつかないで転勤族で営業の方はほんとうに困ったようです。このように熊本は高校同窓会が盛んな土地柄です。

ところで熊本市の神社藤崎宮の秋祭りは「馬追」とか「随兵」とか一般的に呼ばれていますがこの祭りは一時飾り馬が数頭しか出ない寂しい時期もありましたが50年ほど前から高校同窓会が参加するようになり今年は高校だけで11団体、他祭り同好会や企業などあわせて56団体の飾り馬が勢子の「ドウカイ！ドウカイ！」との掛け声で祭りを盛り上げます。今年は9月17日朝6時、神幸行列がスタート。もちろん私の出た高校でもでした。

とは言いながら楽しい同窓会やはり江古田会です。今年は7月に4年ぶりの開催で相変わらずの盛り上がりでした。新人発掘には校友会事務局の多大なご協力に感謝しています。今回新に6人の連絡先が判明しこのうち平成16年放送学科卒の女性が初参加しました。

もうひとつ同窓会の話、8月の日大熊本県支部総会に林真理子理事長が来賓で出席、アトラクションでは日芸校友会75周年記念式典で紹介された中国伝統芸能の「変面」を日芸大学院出身の王文強さんに披露してもらい大盛況。おかげで江古田会の株もあがりました。



江古田支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。(TEL.03-3554-5363)

第25回日本大学芸術学部校友会 北海道江古田会総会

令和5年7月29日 於：札幌東急REIホテル

令和5年度の北海道江古田会の総会・懇親会が、7月29日(土)午後6時から、札幌東急REIホテルにて、会員、来賓合わせて22名が出席して盛大に開催されました。

芸術学部からは、田上 峻詞校友会会長、川上 央学部長をはじめ道内日本大学校友会の関係者の出席をいただきました。

総会では、氏家支部長の挨拶の後、原 議長のもと総会が進められ、大神事務局長より諸案の説明があり、満場一致で承認されました。

記念撮影の後、山上 淳子幹事の総司会により懇親会が進められました。

田上校友会会長、川上学部長、日本大学校友会藤井幹事長から来賓挨拶をいただいた後、今年は、久しぶりに、竹形 貴之(音楽学科) 幹事のクラシックギター演奏が披露され、会場は、しばしうっとり。

それに続き、江古田会では、すっかり恒例になった、原 俊彰(写真学科) 幹事の楽しいマジックショー、さらにビンゴゲーム(豪華景品・はずれなし)が始まり、会場は、興奮のるつぽに包まれました。

しかし、会も25回を数えると当初、会を結成した頃の会員達が、体調を崩して出席できないなど、ちょっと寂しくなってきました。

校歌斉唱の後、札幌日本大学学園理事長の浅利 剛之様の乾杯でお開きとなりました。



北海道江古田会会長 氏家 曹一(放送学科52年度卒業)

鹿児島江古田会

■2022年11月19日、3年ぶりに鹿児島江古田会総会が開催されました。

ご来賓に芸術学部校友会会長の田上 竣詞様と熊本江古田会事務局長の川村 晃生様を迎え、中野 順会長の一声で幕を開けた総会は、鹿児島テレビの坪内アナウンサーが進行を務め、田上様、川村様からいただいた鹿児島江古田会に対する愛情のこもった挨拶に場は温まりました。

■乾杯の後は、大先輩から若手まで楽しく語り、盛り上がる夜となりました。

今回、鹿児島の放送局などに勤務する若手メンバーも初参加し。江古田で過ごした懐かしい青春時代、所沢校舎の思い出、課題や実習に苦労したエピソード、心細かった東京での一人暮らしを支えた仲間の近況など、日藝で熱く、楽しい時間を過ごした同志だからこそ、年齢と性別を越えて共有できるひと時を迎えることができました。

コロナ禍という、仕事や社会までもが大きく変化したこの3年を振りかえり、お互いここ数年の苦労をいたわりながら、再会を誓った会員たちでした。



■約30年前に江古田にいた頃、かすかに残る記憶の中に残るお店「クロダブシ」「ヨウボウチョウ」…ネットで検索してみると、閉店？や移転されているようで。あとは、台湾？中華料理のお店ありましたよね？そこではじめて“ピータン”なる真っ黒いゆで卵のようなものを、一口食べ、ひっくり返った記憶がよみがえりました。お店の名前は忘れてしまい申し訳ないです。

倒れたつながりで言うと、江古田校舎の隣の病院…飲みすぎて担ぎ込まれた苦い記憶が、悪夢のように…。

(鹿児島江古田会 放送学科卒業 羽山貴浩)

福岡江古田会

■私のたまり場は日大芸術学部徒歩旅行部で「緊張せよ、責任を持て、闘志せよ」の部訓の下に、部室に集まり、板橋の笹目グランドまで走り、トレーニングをするのが日課。

校友会報の2022秋季号「ウンレン・ブンレン」に徒歩旅行部が掲載されているではないか。日芸8学科の学生が所属し、学年・学科を超えた交流が盛んで、女性部員が半数以上と聞いて羨ましい限り、入部したくなった。

私が入部した時は、開部し5年目。運動部連盟を意識していて、強化合宿は伊豆の白浜から天城越え、砂袋50kgを背負って歩かされた。手足が痺れダルマさん状態になった。2~3週間は治らなかった。その後は夏合宿。槍ヶ岳を超えて黒部峡谷にアップ・ダウンの連続。足は豆だらけ、やっとの思いで集合場所の七尾へ、そこから輪島まで、もう限界。足裏は豆だらけ、その豆の中に豆が、竹の杖を頼りに歩くが、もう歩けないと倒れこむと、先輩から激しい激が飛ぶ。何とか輪島に夕暮れ間際に到着。飯盒炊飯で野菜炒めを食べたがおこげ。急にお腹がいたくなり、先輩たちの付き添いで病院へ。そく入院、そく手術。手術は痛くもなく簡単に終わったが、先生が先輩たちに、ここが大腸、ここが小腸と引っ張り上げながら説明。話が聞こえるので早く終えてくれと言いたかった。父親も東京から来てくれて。「バカ息子を良く鍛えてくれてありがとう」と緊張していた先輩たちの労をねぎらった。

それからは、トレーニングに身が入り、先輩と一緒に裸足で赤羽まで往復した、体力的に自信がついた。皮の登山靴は、自分には合わず、地下足袋をもっぱら愛用した。

二年生の時に、日大の全校体育祭で、1500mに出場、国立競技場を走ることが出来た。成績は中程度。

日大闘争のロックアウト最中に行われた各クラブ対抗リレーでは、7~8人のごぼう抜き。剣道部から1周遅れではないの、めっちゃ早過ぎると驚嘆の声。我が部は3位になった。

闘争でクラブ活動も少なくなりなくなり、週の半分は、小学館でバイト、残りの週の半分は浅間山で卒業制作の撮影を行った。



<福岡江古田会 会長 飛嶋慶一>

いしかわの夏は、ノトゲキが熱い！！

～ノトゲキ 銀河鉄道の夜～ のと鉄道・能登演劇堂で上演！

ノトゲキは、演劇学科卒業の瀧腰教寛さん（俳優）が主催するプロジェクト。2019年に始動し、本年度で5回目を迎えます。石川県の北部、能登地方には世界でも珍しい演劇堂があります。なんと、舞台と外の自然がつながっているのです！クライマックスで舞台奥の大扉が開き、舞台と自然が一体となった景色は、味わったことのない感動を覚えます！能登演劇堂のある七尾市中島町出身の瀧腰さんは、地域に住む幅広い世代の方と演劇を学ぶ日芸生が交流することで、故郷の活性化と学生の経験を広げる取り組みとして、ノトゲキを続けられています。

今年も演劇学科の学生7名が参加し、8月10日から28日まで中島町に滞在。

ホームステイ先の家業や、地元の行事にも参加しながら夜遅くまで演劇の練習を積んだそうです。

8月19日には、のと鉄道の車両内にて上演、8月22日には七尾東雲高校演劇科の生徒さんと日芸演劇学科の先生も交えてのコラボレーション、8月26日には能登演劇堂での上演が行われました。



本年は新たな取り組みとして、実際に走る列車の車内で演劇が上演！間近で演技をする役者さんの迫力、薄い紫色のライトに照らされた車内と、車窓には夕陽が広がり、異空間の雰囲気を感じ出していました。

5年目に突入し、ますます面白くなりそうなノトゲキ！

来年も石川江古田会は全力で応援していきます！

編集部が撮影した動画をYoutubeにて公開中！

ぜひご覧ください！！石川江古田会チャンネル→



江古田支部の連絡先につきましては校友会事務局までお願いします。(TEL.03-3554-5363)

昭和62年度放送学科卒の井澤です。山形江古田会では幹事を仰せつかっております。例年ならば6月に開催する総会・懇親会ですがコロナ禍により今年も中止となりました。感染症5類に移行したとはいえ参加者の年齢層が高いため、時期尚早との判断でした。この会報への原稿も本来であれば総会・懇親会の報告としたいところでしたが、残念ながら今回はかないません。そこで勝手ながら学生時代の江古田の思い出を綴らせていただこうと思います。

上京した当初は豊玉中の風呂なしアパートから生活を始め、翌年羽沢の風呂付きに引っ越しし江古田の住人となりました。地元・山形へ戻るまでの5年間でここで過ごすことになります。生活圏はほぼ江古田駅北口。今でも思い出すのは北口側にあった飲食店などですが、多くの店がなくなってしまいました。もともと、卒業から35年以上も経てば当たり前ではありますが・・・

中でも思い出深いのが浅間湯の銭湯近くににあった町中華の「武石」(または「たけ石」?)。甘酸っぱい味付けの麻婆豆腐とライス、ラーメンがセットになった定食です。甘酸っぱさの加減が私にとっては絶妙で、未だにあれを超える好みの味はありません。もちろん本格中華で美味しい麻婆豆腐はいっぱいありますが、江古田グルメを見聞する機会もありますが、この店が話題になったことは一度もないのでは、と思います。

次に思い出深いのは栄町の踏切から50mほど進み西に左折した先の左手にあった「愛情ラーメン」。昭和末期の当時でさえ激安だった200円前後で食べられる店で、ここについては今でも懐かしむ声がネットに上がっています。私が好きだったメニューも彼らと同じく「焼きそば」です。ラーメンと同じ生麺を軽くゆで、湯切りだけした状態で中華鍋で表面がパリッとするまで炒めます。凝った食材は一切ない普通の野菜を炒め味付けするのですが、この味付けが何とも不思議。ソースの甘酸っぱさなのか？わからないのにクセになる。つゆだくの状態でいただきます。今どきのように片手にスマホがあれば、きっと写真で紹介できたであろうと残念です。

最後は栄町保育園の向かいにあった「トゥッティ」というBar。夜しか貸し切りにできないスケートリンクでアイスホッケーの試合や練習が終わった後、夜中にお邪魔し夜明けまで飲ませてもらいました。当時はまだバブルの只中にあり、そこそ高い店なのに学生でも飲食できたのです。

さて、皆さんにも思い出の店が数々おありでしょう。次は是非皆さんの思い出の店もうかがってみたいと思います。

第17回日藝賞受賞記念講演会

第17回日藝賞に選ばれた映画監督・藤井道人さんの受賞記念講演会が2023年9月20日（水）11：15から芸術学部江古田校舎A棟B201教室にて開催されました。

本学部学生・大学院生・教職員対象とした今回の講演会は、前半は新入生歓迎式の際にできなかった日藝賞授与式、後半は映画学科の松島哲也教授との対談形式で行われました。



藤井道人 プロフィール

1986年生まれ。東京都出身。日本大学芸術学部映画学科卒業。大学卒業後、2010年に映像集団「BABEL LABEL」を設立。伊坂幸太郎原作『オー！ファーザー』（2014年）でデビュー。以降『青の帰り道』（18年）、『ディアンドナイト』（19年）、『宇宙でいちばんあかるい屋根』（20年）、『ヤクザと家族 The Family』（21年）、など精力的に作品を発表。2019年に公開された『新聞記者』は日本アカデミー賞で最優秀賞3部門含む6部門受賞をはじめ、映画賞を多数受賞。

2022年にはNetflixオリジナルドラマ『新聞記者』で再び監督を務める。同年に公開された映画『余命10年』では興行的にも大ヒットするなど、常に時代性に合った話題作を生み続けている。2023年は映画『ヴィレッジ』、『最後まで行く』を公開。



写真学科

■令和4年度卒業制作受賞者

<芸術学部長賞> 安藤凌「仕合せの歩みから」坂入亮「旅標」堀越千晴「来世」水上寛庸「冷たい抱擁」横田航洋「凍て解け」
<芸術学部奨励賞> 酒井葵織「yohaku」
<金丸重嶺賞> 清水敬祐「Do Reflective Objects Illuminate the Future?」干場天裕「懐古採集写真」三浦千歳「“在”たり前の日々」三神日和「産土に謡う」渡邊菜々実「渋谷人類図鑑」

■令和4年度卒業受賞者

<写真学科奨励賞> 石川貴暉「THE TOKYO “Unexpected” OLYMPICS」<写真学科奨励賞（WEB）> 中馬健吾「2001円宇宙の旅」野中晴瑠彦「東京24区」<新写真派協会賞> 横田航洋「凍て解け」

■GRIP2023日本大学芸術学部写真学科学生選抜作品展を開催

6月22日～28日、ポートレートギャラリーで開催しました。出品者は、4年生の上園了慶、角田花野、新宮巳美、皆川真悠理、芳原優里、3年生の黄蔚晴、檜山遼の7名でした。外部の方へ向けた作品制作および来場者の方々との会話を通し、全員が大きな成長をとげることができました。



■写真・映像機材展2023を開催

7月7日、日藝七夕祭りと同時開催でした。メーカー19社のご協力をいただき、3年ぶりに機材展を開催することができました。東棟2階学生ホールおよび1階の写真大スタジオが会場となりました。最新の写真機材、カメラ、レンズ、プリンター、写真用ペーパーなど多くの機材に触れることができました。写真学科のみならず他学科の多くの方が訪れてくださいました。豪華景品の当たるプレゼント企画も実施されました。



■機材診断を開催

キヤノンカメラ診断 4月25日・26日 10:00～17:00

ニコンカメラ診断 7月7日 11:00～16:00

コロナ禍で開催を延期してきた機材診断を実施することができました。多くの点検依頼があり、両者とも時間をオーバーしてご対応いただきました。

■写真学科の直近情報は下記をご覧ください

公式ホームページ <https://www.nuaphoto.com>

公式X(旧Twitter) @nichigei_photo



映画学科

■オープンキャンパスが6月25日（日）、8月6日（日）の両日行われました。

今年度は、コロナ禍前同様、オープンな形で行われました。映画学科では、「学科紹介・説明」「コース紹介・説明」「模擬授業」「撮影・録音スタジオを中心とした映画学科施設見学ツアー」「進学相談」が行われ、多くの受験希望者が来校し、学科・コース紹介、模擬授業、学科施設見学ツアーへの参加がありました。また、コース別に行った進学相談にも多くの受験希望者が集まり、活気あるオープンキャンパスになりました。

■毎年12月に開催されている映像表現理論コースの「映画ビジネスゼミ」が企画して行う今年度の映画祭は、渋谷のユウロススペースにおいて「移民とわたしたち」(仮)をテーマとし、12月2日（土）～8日（金）に行われる予定です。15作品ほどが上映されます。毎年多くの観客が来場しています。校友の皆様も是非一度、ご来場ください（有料です）。





美術学科

■卒業生の活躍 植松美月さん（彫刻専攻卒業）



Terrace Art Shonan Award2023にて、本学彫刻専攻卒業生の植松美月さんが、グランプリを受賞した。紙を染色した作品「わきたつ」は、湘南の海がテーマとなっている。植松さん

は「海の煌めきが、行ったり来たりを繰り返す人そのものに見え、海の上をすべるように、街になっていく想像をしたことがきっかけで制作に取り掛かった。それは自然と人の関わりそのものであり、私にとっては素材とのやりとりそのものではないか」と語る。2023年9月30日より、受賞作品展も開催される。ぜひご覧ください。テラスアート2023は神奈川県藤沢市Terrace Mall湘南にて開催。

■卒業生の活躍 東尾文華さん（大学院芸術学研究科博士後期課程芸術専攻在籍）



「画廊からの発言 新世代への視点 2023」は、銀座・京橋を中心とした7画廊が各々に推薦する新鋭作家の個展を同時開催する企画。1993年から今回で24回目となる。今回、大学院芸術学研究科博士後期課程芸術専攻に在籍する、東尾文華さんが選出され、ギャラリー東京ユマニテにて、「画廊からの発言 新世代への視点 2023 東尾文華展 一爛々ー」を開催した。作風は、女性がモチーフとして扱われた、併用技法（木版・銅版）版画作品で、女性のなめらかな流線を、技法と素材の両特性を巧みに利用した風合いを作り、巧みに表現していた。繊細な線表現と考え抜かれた色面形によって構成されている。作品に直接対峙し色彩を体感してほしい。



音楽学科

音楽学科主催演奏会（令和5年11月～令和6年3月開催分）

・第52回ピアノコンサート

11月15日(水) 17:00開演予定
光が丘 IMAホール

・第35回ウィンドオーケストラ定期演奏会

11月21日(火) 18:30開演予定
杉並公会堂 大ホール

・第54回オペラ公演

12月7日(木) 17:00開演予定
光が丘 IMAホール

・第141回定期演奏会

12月18日(月) 18:30開演予定
杉並公会堂 大ホール

・卒業演奏会

3月13日(水)
北とぴあ つつじホール

・情報音楽コースSWITCH2024

3月16日(土)・17日(日)
江古田校舎

※上記演奏会は入場無料となっております。

新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、中止または延期させていただく可能性があります。その場合は、音楽学科ホームページにて発表いたします。



音楽学科HP



音楽学科 Instagram



音楽学科 X (旧 Twitter)



文芸学科

■ロケット商会さんの『勇者刑に処す』アニメ化企画進行中

文芸学科卒・ロケット商会さんの『勇者刑に処す 懲罰勇者9004隊刑務記録』のアニメ化企画が進行していることが、電撃文庫30th 夏の祭典オンライン2023の配信内で発表されました。時期については続報をお待ちください。公式Twitterアカウント(@yushakei_PJ)も開設されました。

『勇者刑に処す 懲罰勇者9004隊刑務記録』は、Web小説サイト・カクヨムで連載されており、書籍版が現在5巻まで電撃の新文芸から刊行されております。コミカライズも進行中で現在1巻が発売中です。

■豊田百香さん脚本担当の夏アニメ2作が放映されました

文芸学科卒・豊田百香さんが、この夏放映されたアニメ「わたしの幸せな結婚」と「라이어・라이어」のシリーズ構成・脚本を担当されました。

「わたしの幸せな結婚」豊田百香：シリーズ構成・脚本(佐藤亜美、大西雄仁との共同)

「라이어・라이어」豊田百香：シリーズ構成・1,4,8話脚本

■文芸学科在学中の作家・人間六度さんが原作のwebコミックが連載中

ハヤカワSFコンテスト・電撃小説大賞受賞作家・人間六度さんが原作を担当する最新終末世界SF『ハンドレッドハンドルズハンドリングザ・ワールド』が、Webマンガ配信サイト「コミプレ-Comiplex-」にて、2023年6月23日(金)より月刊連載中です。作画はアナグマケイゴ氏がつとめています。

掲載サイト

<https://viewer.heros-web.com/episode/4856001361338075853>
(「コミプレ ハンドハンドハンド」で検索)

■しろうろんさん原作のコミック『賢者ならうちで寝てる』

文芸学科卒・しろうろんさんが原作をつとめるコミック『賢者ならうちで寝てる』の1巻がシルフコミックス(KADOKAWA)より刊行されました。しろうろんさんは2022年『賢者ならうちで寝てる』で「魔法のiらんど大賞2021 コミック原作大賞 現代ファンタジー部門賞」を受賞。2023年より同作の連載を開始し、漫画原作者デビューしました。



演劇学科

■令和5年度の演劇学科

演劇学科は以下専任教員、助手と舞台芸術の研究、教育に学生と力を合わせて頑張ってます。校友の皆様の変わらぬご支援を引き続きよろしくお願い致します。

奥山 緑 (教授・学科主任)	主な担当授業「演劇概論Ⅰ/劇場論Ⅱ」
小林直弥 (教授)	主な担当授業「演劇史Ⅰ/舞踊学」
中野成樹 (教授)	主な担当授業「演出演習/演出論」
范 旅 (教授)	主な担当授業「舞踊特殊実習/総合実習」
松永雅彦 (教授)	主な担当授業「西洋舞踊実習/総合実習」
松山 立 (准教授)	主な担当授業「演劇史Ⅱ/演技実習」
山口英峰 (准教授)	主な担当授業「舞台技術研究/総合実習」
青木拓也 (助教)	主な担当授業「舞台美術実習/総合実習」
今井春日 (助教)	主な担当授業「演劇基礎演習/音響実習」
南 香織 (助教)	主な担当授業「照明演習/照明実習」

秋山舜稀 (助手)	大迫美乃莉 (助手)	加藤響之介 (助手)
田中幸乃 (助手)	能勢芽衣 (助手)	渡辺菜菜 (助手)

■石川県立七尾東雲高校演劇科との合同授業

令和5年8月1日に、石川県と学校法人日本大学が包括連携協定を締結したことを受け、8月22日に石川県七尾市にある能登演劇堂で、演劇学科4名の教員による七尾東雲高校演劇科と芸術学部演劇学科の合同授業が開催されました。短い物語を演劇学科生が演じ、空間構成及び進行と照明、音響デザインを高校生が担当しました。2019年度から継続している「ノトゲキ」(地方滞在型演劇創作)も含め、石川県及び七尾市との連携を進めて参りたいと思います。



照明デザインや操作卓について学ぶ高校生



演劇学科HP



演劇学科 Instagram



演劇学科X(旧Twitter)

※フォローよろしくお願い致します。



放 送 学 科

■中学生のための「情報番組制作ワークショップ」

練馬区と放送学科が共同して実施している情報教育推進事業“中学生のための「情報番組制作ワークショップ」”が今年も開催されました。

練馬区在住・在学の中学生16名が集まり、放送学科・鈴木康弘教授の指導のもと、9日間に渡って情報番組を制作しました。

12回目の開催となった今回は「練馬区で大調査！○○○○についてどう思いますか？」をテーマに取材・編集を行い、7月20日には放送学科の第1スタジオで複数台のカメラを使用して収録を行い、番組を完成させました。

このワークショップは、企画立案、取材、編集から完成までを中学生たちが実際に体験することで、メディア・リテラシーを学ぶことを目的として行なっています。

最終日には完成作品の上映と、鈴木教授の講演会が行われました。



■「ACジャパン広告学生賞」2チームが優秀賞

第19回「ACジャパン広告学生賞」において、放送学科の実習科目「CMIV・V」の受講生たちが企画制作した作品が優秀賞を獲得しました。

優秀賞受賞作品「あなたの顔」篇はスマホ依存をテーマとした作品で、もう一つの優秀賞受賞作品「私の分まで。」は献血をテーマとした作品です。

どちらの作品も以下のURLから閲覧ができます。

<https://www.adc.or.jp/campaign/cm/recruit.html>



デ ザ イ ン 学 科

■飯岡萌音さん（卒業生）が第71回朝日広告賞「一般広告の部」グランプリを受賞

1952年に設立されて以来、広告デザインの登竜門として多くの有名クリエイターを輩出してきた朝日広告賞にて、応募総数1512点の中から卒業生の飯岡萌音さんを含むチームが制作した作品「死ぬのが怖いのは、冷たいお墓にも責任があると思う。」が、グランプリを受賞しました。死生観やお墓のあり方について社会に問いかけた樹木葬の広告作品として審査員の注目を集めました。

■中村至男さん（卒業生）が絵本「ぶっくり ぽっこり」出版と「ヒロシマ・アピールズ」のポスター制作

絵本作家としても活動するグラフィックデザイナーの中村至男さんの作品「ぶっくり ぽっこり」が出版されました。あらかじめ穴の開いた本のページに指を差し込むことで完成する新しい感覚の仕掛け絵本です。また中村さんは公益社団法人日本グラフィックデザイン協会/JAGDAが1983年より毎年、広島国際文化財団、ヒロシマ平和創造基金とともに開催している、言葉を越えた平和へのメッセージを呼びかけるキャンペーン「ヒロシマ・アピールズ」のポスター制作者に選抜されました。

■若原一貴教授と和田菜穂子非常勤講師が主宰する「一般社団法人東京建築アクセスポイント（A.P.）」での活動が2013年度 日本建築学会教育賞を受賞

A.P.は「建築ツアー」「教育プログラム」「研究調査」の3本柱を軸に活動する建築専門家集団で、東京の建築を「文化資源」とみなし、その価値を様々な人に広めることを目的として設立されました。楽しみながら「知る機会」を創出する社会的活動が「建築環境形成」へと繋がる可能性が高く評価され、今回の受賞となりました。

■笠井則幸教授がANBD2023（アジア ネットワーク ビヨンド デザイン）にて笠井則幸教授がグランプリを受賞

Empathy「共感」をテーマにアジア各国で活動するデザイナーが出品。展覧会は2023年8月に日本大学芸術学部A&Dギャラリーで開催し、その後、メイン会場のソウル展（11月3日から8日）、台北展（11月22日から26日）、バンコク展（12月15日から19日）へと各国を巡回します。

ウンレン・ブンレン

運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中

公認部会

※令和5年4月1日現在

文化部連盟加盟部会

オーディオ無線研究会
軽音楽部
珈琲研究会
コスプレ研究会 COMPLEX
殺陣同志会
熱血漫画根性会
フォークソング倶楽部
B.D.C演劇映画放送研究会
マジック研究会
落語研究会
長唄研究会

運動部連盟加盟部会

合気道部
剛柔流空手道部
剣道部
戦遊部
徒歩旅行部
バレーボール部

文化部連盟 珈琲研究会

珈琲研究会の活動を、という執筆依頼を頂いた。

珈琲研究会は先代が築き上げてしまったここでは記せないような古き悪しきパブリックイメージが未だに蔓延っているので、それを払拭するには良い機会だと思い、お引き受けすることにした。

コロナ禍を経てあらゆる規制が緩和されたこともあり、止まっていた針が動き出した。日常的に部室に行くことができるようになった。そんな珈琲研究会の今の活動は「部室で話をする」ことだと思う。正直これ以上でもこれ以下でもない。共通しているのはその空間に必ず珈琲があること。

たわいもない話から少しセンセーショナルな話まで、会話をすることで部員同士の親睦が深められたら良い。会話を交わすことで仲良くなれるし、自分とは違う考え方を受容できたり、共通点を見つけて距離が近くなることもある。会話は大事だ。会長の僕としては、大学へ行きづらい思いを持っている人とか、生きづらさを抱えている部員のよりどころ・避難所になれば良

いなという思いで活動している。

昔のような珈琲研究会はもうどこにもない。55年の歴史があるが、僕としては2023年が新体制・新形態元年だと思っている。まだまだ発展途上ではあるが、新しい珈琲研究会の形を今の部員と共に築き上げていきたい所存である。

珈琲研究会 放送学科3年 大長照英



新役員の紹介

所属	役職	氏名	卒年
放送	会長	田上 竣詞	53
美術	副会長	鞍掛 純一	H1
写真	副会長	高橋 則英	52
写真	副会長	田中 光子	53
演劇	副会長	三原 治	54
美術	副会長	小橋 克史	H1
音楽	名誉会長	川上 央	H7
デザイン	顧問	木村 政司	53
映画	顧問	八木 信忠	34
放送	顧問	野田 慶人	49
音楽	監事	小林 順一	H5
演劇	監事	柴田 真由美	61
旧制	常任幹事	桜井 理治夫	専 25
写真	常任幹事	原 直久	43
写真	常任幹事	鯉江 充	54
写真	常任幹事	西垣 仁美	58
写真	常任幹事	服部 一人	58
写真	常任幹事	丹羽 寿成	58
写真	幹事	萩原 順一	32
写真	幹事	小泉 定弘	41
写真	幹事	南岡 秀男	46
写真	幹事	浅井 譲	54
写真	幹事	鈴木 隆史	58
写真	幹事	大室 朋信	H8
写真	幹事	田中 里実	H16
写真	幹事	石田 美菜子	S59
写真	幹事	六吹 有希	H18
写真	幹事	鳥海 早喜	H18
映画	常任幹事	浦井 孝行	45
映画	常任幹事	宮澤 誠一	46
映画	常任幹事	清水 修二	53
映画	常任幹事	山本 英史	57
映画	常任幹事	鳥山 正晴	59
映画	幹事	阿部 靖夫	44
映画	幹事	中川 京子	53
映画	幹事	廣瀬 真奈実	60
映画	幹事	齋藤 裕人	H1
映画	幹事	奥野 邦利	H4
映画	幹事	上倉 泉	H5
映画	幹事	加藤 順子	H6
映画	幹事	長部 純平	H18
映画	幹事	志賀 弘一	H8
映画	幹事	島田 和行	H19

所属	役職	氏名	卒年
映画	幹事	小山 正太	H21
美術	常任幹事	飯田 竜太	H15
美術	常任幹事	坪井 麻衣子	H16
美術	常任幹事	大橋 朋美	H21
美術	常任幹事	柴田 直起	H30
美術	幹事	根本 忠緒	38
美術	幹事	濱口 泰己	43
美術	幹事	設楽 俊	H18
美術	幹事	大槻 孝之	53
美術	幹事	福島 唯史	63
美術	幹事	笹井 祐子	H1
音楽	常任幹事	大槻 秀一	53
音楽	常任幹事	田村 和夫	59
音楽	常任幹事	西尾 敦子	H1
音楽	常任幹事	駒沢 大介	H10
音楽	幹事	綿村 松輝	38
音楽	幹事	加藤 明	45
音楽	幹事	松井 保雄	47
音楽	幹事	今泉 久	50
音楽	幹事	清水 泰博	54
音楽	幹事	小川 哲夫	55
音楽	幹事	田代 幸弘	56
音楽	幹事	大内 国晴	H2
音楽	幹事	三戸 勇氣	H11
音楽	幹事	竹田 香子	H19
文芸	常任幹事	生沼 剛	41
文芸	常任幹事	河野 直樹	50
文芸	常任幹事	大塚 実	53
文芸	常任幹事	青木 敬士	H4
文芸	幹事	小澤 英輔	36
文芸	幹事	戸田 勝男	43
文芸	幹事	佐々木 誠	54
文芸	幹事	清水 正	46
文芸	幹事	武富 佐知子	50
文芸	幹事	吉田 克也	51
文芸	幹事	上田 薫	62
文芸	幹事	谷村 順一	H9
文芸	幹事	西尾 真	H14
文芸	幹事	長谷川 直人	H14
文芸	幹事	上坪 裕介	H16
演劇	常任幹事	福田 章子	55
演劇	常任幹事	梅野 美根子	60
演劇	常任幹事	喜多村 淳子	H2

所属	役職	氏名	卒年
演劇	常任幹事	深尾佳代子	H5
演劇	常任幹事	山口 英峰	H13
演劇	幹事	平井 徹	H5
演劇	幹事	塚本 知佳	H7
演劇	幹事	棚山 歩	H11
演劇	幹事	鎌田 伸一	H14
演劇	幹事	青木 拓也	H17
演劇	幹事	南 香織	H17
演劇	幹事	原田つむぎ	H24
演劇	幹事	勝 政樹	H26
演劇	幹事	秋山 舜稀	H31
演劇	幹事	大迫 美乃莉	R 4
放送	常任幹事	島岡 唯信	63
放送	常任幹事	安部 裕	H2
放送	常任幹事	茅原 良平	H13
放送	常任幹事	河輪 三奈美	H21
放送	幹事	森田 雅行	50
放送	幹事	吉川 元	52
放送	幹事	佐々木 善朗	53
放送	幹事	林 誠	54
放送	幹事	金 龍郎	59
放送	幹事	松井 篤	59
放送	幹事	久保田 哲司	60
放送	幹事	八巻 潔	60
放送	幹事	稲垣 真一	H4
放送	幹事	澤田 顕一	H21
放送	幹事	佐伯 駿介	H26
デザイン	常任幹事	荒井 弘美	50
デザイン	常任幹事	片岡 義和	52
デザイン	常任幹事	長瀬 浩明	63
デザイン	常任幹事	笠井 則幸	H7
デザイン	常任幹事	長坂 淳	H9
デザイン	幹事	中島 安貴輝	40
デザイン	幹事	桑原 淳司	49
デザイン	幹事	肥田 不二夫	51
デザイン	幹事	佐藤 徹	H2
デザイン	幹事	大沼 敦	H3
デザイン	幹事	石田 純之助	H8
デザイン	幹事	布目 幹人	H11
デザイン	幹事	谷口 聡子	H15
デザイン	幹事	片桐 祥太	H24



日々是好日 会長日記

田上 竣詞

とうとう我が家に春が来た！

元朝もとうに過ぎ、松の内の賑わいも過ぎたある屋下がり、とうとう我が家に春が来た！

イヤ、跡継ぎが生まれた。最近のニュースでは一番の朗報である。

勿論、私の年齢から考えるに息子のはずはない。我が家のお孫様の誕生。

頭の中は、盆と正月がいっぺんに来た、いや長岡の花火大会と大曲の花火大会が交互に来了驚きと歓びである。

ここまでは、どこのご家庭にもある何のことは無い話。そんなニュースから半年たったある日の事、深夜息子からラインが入った！

“お父さん、大変です。お母さんが家出した！”

何の話？

とても嫌な予感が働く、いや多分嫌なニュースに違いない。

妻は昨日から、自分の腹を痛めた大好きな息子のところへ孫の世話に行っている。

私は故あって一足先に帰宅した。その深夜の話である。

昨日お父さんが帰ってから、お母さんがお酒を呑みだし、(最近毎日晚酌を) 独り言のように、言い出したそう。

子供の育て方が気に入らない、ぶつぶつ、時間を決めてミルクなんか昔はしなかった、ぶつぶつ。子供はほっとけば眠たくなったら寝るし、ブツブツ。

最初はなにか念仏でも唱えているかと思ったらしいが、よく聞いてみると嫁に対しての意見のようである。

いやあ、意見などと云うものではない、叱り？ 姑のセレモニーが始まった。

嫁は泣き出し、孫も愚図りだし、流石の息子もお母さんを外に連れ出し、親子喧嘩の始まり始まり。

そこまでラインを読んだ私は、携帯の電源を切って、ふて寝した。

後の話をお聞きになりたい方は、どうぞお気軽にお尋ねください事務局に。

今日の格言ですが、禍福は糾えるが縄のごとし！ クワバラクワバラ。

皆様のご多幸を祈念しております。



今昔江古田 B 級グルメ



学生時代から下戸な分、食いしん坊だ。金欠の時以外は学食には行かなかった。今の学食はメニューも豊富で美味しいが……。

70 年代後半、日芸正門前にあった「長寿庵」のすき焼きうどん（学生の分際で出前を取ったりした）、踏切近くにあった「大盛軒」の鉄板麺（立川志らく師匠も好物だったらしい）、「カルチェ」のナポリタン大盛りが好物だった。何故か江古田駅南口方面には行かなかった。

校友会に関わるようになって、南口にある洋食屋・定食屋で食事をするのが楽しみになった。

江古田の街もすっかりオシャレになってお店も代わってしまったが、学生街の雰囲気はしっかり維持してくれているのが有り難い。

今のご最良は「ランチハウス」「好々亭」「キッチン ABC」、そしてラーメンだが「天下一品」（江古田店はチェーンの中でもウマイと評判）が行きつけだ。

先日、好々亭に行って、「鮭フライと牛スタミナ焼き定食」を戴いた。ここはお櫃にご飯が入っているのがミソでたっぷり食べられるし、もちろん美味しい。

江古田に来ると、ブルーストじゃないけど、食べ物で学生時代の記憶が蘇る。読者の諸兄諸姉もたまには江古田でメシ、食いませんか？（Y）



寄付のお願い

皆様からの寄付を募っています。1口3千円で何口でも寄付を受け付けております。

寄付金は校友会活動に有効に使わせて頂きます。振込先などのお問い合わせは日芸校友会事務局まで。



住所変更等のご連絡について

住所等の変更がありましたら校友会事務局までご連絡ください。市町村区の合併等で番地が変更になられた場合もご連絡お願いいたします。

校友会事務局

電話 (03)3554-5363 メール ekoda.koyu@gmail.com

HP <http://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

(トップページの“CONTACT”より「登録情報の変更」フォームにご入力ください)

IT委員会からのお知らせ

校友会ホームページに「校友たちの活躍」というイベント情報の掲載欄があります。(<https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/activity/>)

全国の校友の皆様、展覧会、出版、公演などイベントを開催される時にはぜひ情報をお寄せください。在学生のイベント情報も掲載できます。(学生の情報掲載は、各学科の先生を通じて校友会事務局に連絡をお願いいたします。)

編集委員から

総会の写真、川村様、木村前芸術学部長の3枚は石川江古田会 干場文夫事務局長が撮影。75周年記念式典と懇親会の集合写真は、写真学科の八木元春助教が撮影してくださいました。

編集後記

8月6日に開催したオープンキャンパスの入場者数は6503名にのぼり、コロナ禍のため事前予約が必要だった昨年度の3081名を大きく超える数となりました。高校生の関心の高さを示すように、総合型選抜(旧AO入試)の志願者も1112名と、史上はじめて千人の壁を突破するエントリーがありました。日藝の未来をつくる世代に期待を抱かせてくれます。(青木)

- 発行人 田上 竣詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 山本 英史、鯉江 充、青木 敬士
- 表紙 玉利奈津実(美術学科2022年度卒)
『僕らの時代がそうさせたようでもある』
制作年月 2022年8月
素材、技法 紙(モレスキンの手帳)、ペン
- デザイン監修 平林 直人
- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16 コア本郷ビル
電話 03-3814-1225



日本大学芸術学部校友会

日本大学芸術学部校友会報・第111号

2023年秋季号 ●令和5年10月発行 ●

非売品

不許可転載

- 発行所 日本大学芸術学部校友会
〒176-8525 東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部に
電話 (03) 3554-5363
事務担当 星野 祥子

URL: <https://koyu.art.nihon-u.ac.jp/>

メールアドレス: ekoda.koyu@gmail.com



令和6(2024)年度一般選抜のご案内

一般選抜A個別方式

【第1週】

学科	出願期間	試験日	試験場所
写真学科	1月5日(金)～1月26日(金)	2月6日(火)	芸術学部校舎
美術学科		2月6・7日(火・水)	
音楽学科			
演劇学科			
放送学科			

【第2週】

学科	出願期間	試験日	試験場所
文芸学科	1月5日(金)～2月2日(金)	2月13日(火)	芸術学部校舎
映画学科		2月13・14日(火・水)	
美術学科			
デザイン学科			

一般選抜N全学統一方式(第1期)

学科	出願期間	試験日	試験場所
全学科	1月5日(金)～1月19日(金)	2月1日(木)	全国各地の 試験会場

一般選抜N全学統一方式(第2期)

学科	出願期間	試験日	試験場所
全学科	1月5日(金)～2月23日(金)	3月4日(月)	郡山、千葉、東京、湘南の 各試験会場

その他の入学者選抜や令和7年度以降の変更点については、
受験生向けサイト「日藝CROSS」をご確認ください。

<https://cross.art.nihon-u.ac.jp/>

